

会員の
ひろば

私のお薦めコーナー

札幌近郊のプチ登山 —西区三角山—

知本康男

道政のシンボル、道庁赤レンガ舎の館内をご覧になったことはありますか？ 館内は資料室や展示室として道民や観光客に開放されています。館内の廊下には北海道開拓の史実を題材とした多くの絵画が掲額されています。そのうち2階北側廊下には『札幌本府の建設』と題して、開拓判官の島義勇が北海道の首都(本府)を函館から札幌に移す際に円山の丘上から無人の荒野を臨み、雄大な構想を練ったとの情景を描いた絵画があります。これは明治2年(1869)の11月初冬のシーンであるとのこと。広大な雪原に豊平川が優雅に流れる景色に指を差しながら都市化の構想を巡らせる情景にメガトン級の感銘を覚えました。

では、この円山の丘って一体どこなのか？ 漫才師のナイツよろしく直ぐさまインターネットの某検索サイトで調べてみました。丘の名称は“コタンベツの丘”と言い、北海道神宮裏参道の小山(現在の円山山頂ではなく円山公園奥地の小高い丘)が通説のようですが、いやそうではない、より宮の森サイドに位置する三角山ではないかとの一説もあります。

と言う訳で、件の三角山(標高311m)に登ることにしました！ (脈絡のない展開で恐縮です)。

***** いざ、登山！ *****

登山道は三つのルートがあり、宮の森入口、山の手入口、そして大倉山からの尾根伝いラインです(写真-1 参照)。今回は駐車スペースが十分に確保された山の手入口からアプローチしました。登山道の出発点の風景(写真-2)は、なにやら遊歩道感が漂うことから、たかが比高250mのハイキング登山との感覚で入山しましたが、四の坂~八の坂のつづら折りで見事にバテてしまい、運動不足&体力低下を痛感した次第です。いつも観ている日本百名山一筆書き(TV番組)の田中陽希氏に感化されていた自分が恥ずかしくなりました。

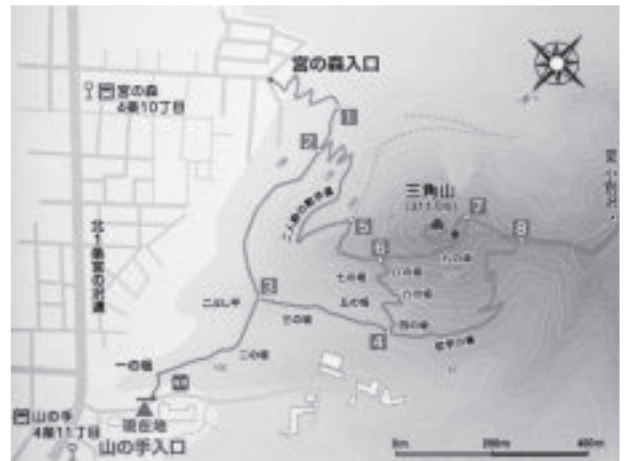


写真-1 登山道ルート図(現地看板)



写真-2 山の手入口の登山道出発点の様子

さて、登山道ですが少なくとも山の手入口側からのルートはかなり整備が施されており、随所に案内看板が設置されていることは勿論のこと、誘導ロープも施設されており、迷うことはまずありません。また、急登箇所も多くには階段が設置され、援助ロープが張られている箇所もありました。足元の浮石対策(鉄筋棒で固定)も見られ、安心して楽しめる登山ルートです。ただし、斜面の表層崩壊が登山道をえぐりかけている箇所も散見され、先のつづら折り道では常に山側を歩行することが鉄則と考えます。



写真-3 整備された登山道の状況

登山の楽しみとして、標高ごとに種別が異なる色とりどりの草花を観察したり、野鳥の歌声を聴いたり、遠方ビューイング以外にも視覚や聴覚に訴える自然の醍醐味を感じるがことができます。今回は紙面の都合でこの種の情報は割愛させていただきます。一瞬ですが、斜面下方から吹き上がってきた風に焼肉の香りを感じた臭覚には少々幻滅してしまいました(この日の下界は花見宴会の最盛期でした)。

***** 山頂から *****

山頂からは札幌の市街地が一望でき、お隣の円山よりはやや標高が高い位置からのビューを楽しめます(写真-4)。あいにく登山した日は大陸からのPM2.5の影響で視界は不良でしたが、なんとか野幌丘陵までは見渡すことが出来ました。この三角山山頂が、あの感銘を受けた絵画のロケーションであったのかも知れないと考えると、私も何かしら壮大な構想を巡らせようと既に整備された札幌市街地を見下ろしましたが、この年になると特段野心もなく、そろそろ自身の第二の人生を設計しなきゃと考えた次第です。

さて、山頂はそんなに広くありませんが、腰を下

ろしてお弁当を頂くスペースはあります。ゆっくりするのであれば、少し下の東屋がある広場で休まれるのが無難です。山頂やこの広場では、莫塵を広げて“もぐもぐタイム”しているファミリーの団欒、健康登山を称え合う熟年グループ、虫から逃げ回る若い女性、トレーニングでしょうか山頂滞在時間1秒のジャージ姿の寡黙な若者、色んな方々に遭遇します。このように賑やかな山頂でしたが、取りあえず満足感を噛み締めて下山の途につきました。駐車場からの往復1.5時間のプチ登山でした。

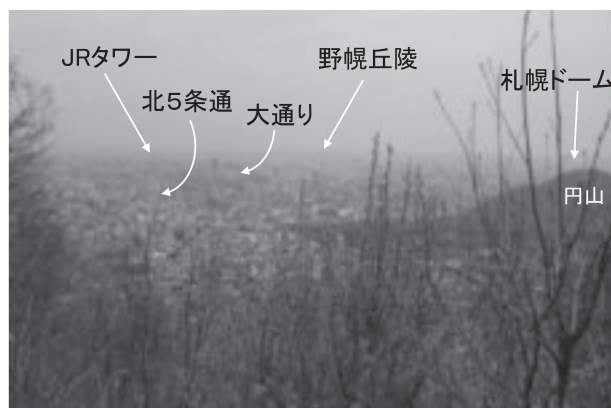


写真-4 三角山山頂から望む札幌市街地

*****「北海道」命名150周年*****

先に紹介した島義勇の後任にあたる松浦武四郎が提案した「北加伊道」が正式に「北海道」と命名されて、今年で150年を迎え、道内では記念事業やイベントが展開されているようです。

開拓史実を思い浮かべての今回の登山でしたが、有名な史跡でなくとも十分に歴史を感じられたことは非常に楽しい経験でした。

道庁赤レンガ舎は改修のため来年から3年間は閉館になるそうです。是非、館内掲額の歴史絵画をご覧になり、自分なりの歴史体感ツアーに出掛けられては如何でしょうか。

知本康男(ちもと やすお)
技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)
基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

